

# 2015年度 第1四半期 決算説明資料

明豊ファシリティワークス株式会社

2015年8月5日



# 2015年度 第1四半期 決算サマリー



# 2015年度 第1四半期 決算サマリー

- ◆受注・利益は、計画通り
- ◆通期予想は過去最高を見込み、前年同期より賞与引き当て増し、第1四半期は、計画通りその分減益
- ◆改正公共工事の品質確保の促進に関する法律が施行され、地方公共団体から問合せが増加
- ◆CM事業では、プロジェクト立上げ段階からの新規案件が増加

# 2015年度 第1四半期 決算概要



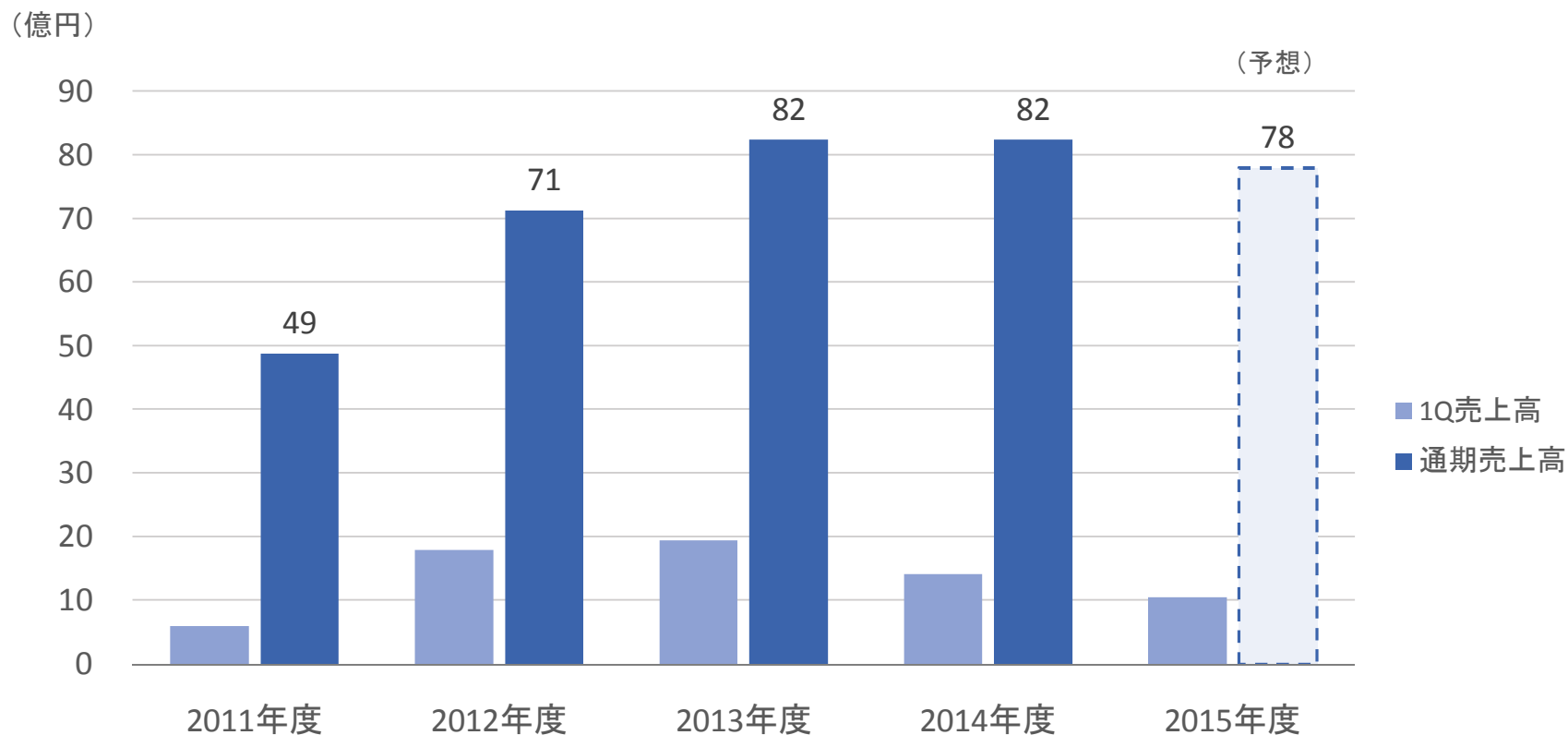
# 1 2015年度 第1四半期 決算概要

(各項目を円単位計算後、百万円未満切捨て)

		2014年度 1 Q	2015年度 1 Q	前年同期比較
定 量 面	売上高	1,416	<b>1,051</b>	△ <b>365</b>
	売上総利益	313	<b>282</b>	△ <b>31</b>
	売上総利益率	22.2%	<b>26.9%</b>	<b>4.7%</b>
	営業利益	56	<b>21</b>	△ <b>35</b>
	経常利益	56	<b>20</b>	△ <b>35</b>
	当期純利益	35	<b>12</b>	△ <b>22</b>

## 2 売上高の推移

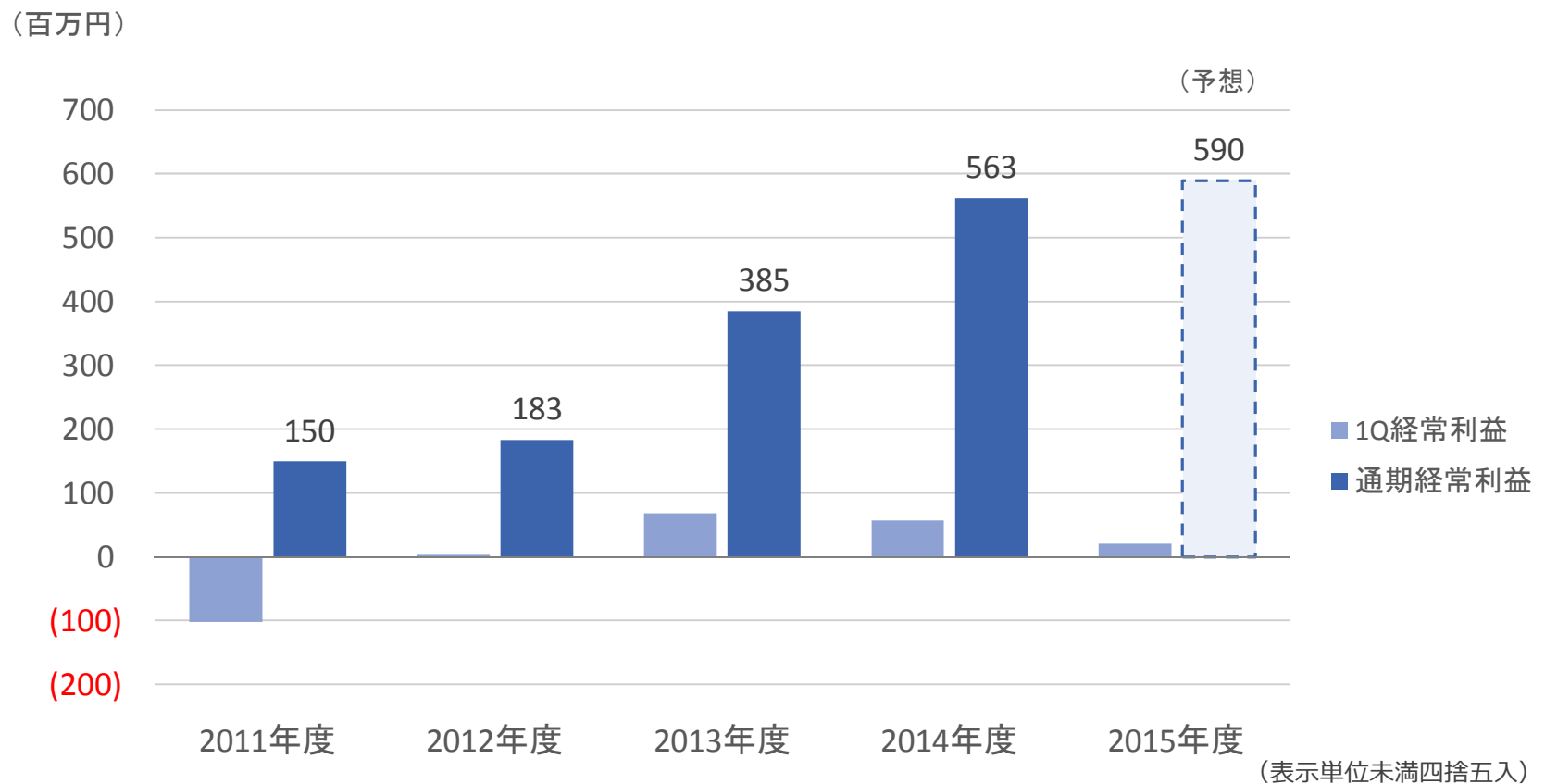
第1四半期においては、ピュアCM（工事原価を含まないフィーのみの契約型CM）が増加し、アットリスクCM（工事原価を含む請負契約型CM）の出来高が減少したため、売上高が減少いたしました。



(表示単位未満四捨五入)

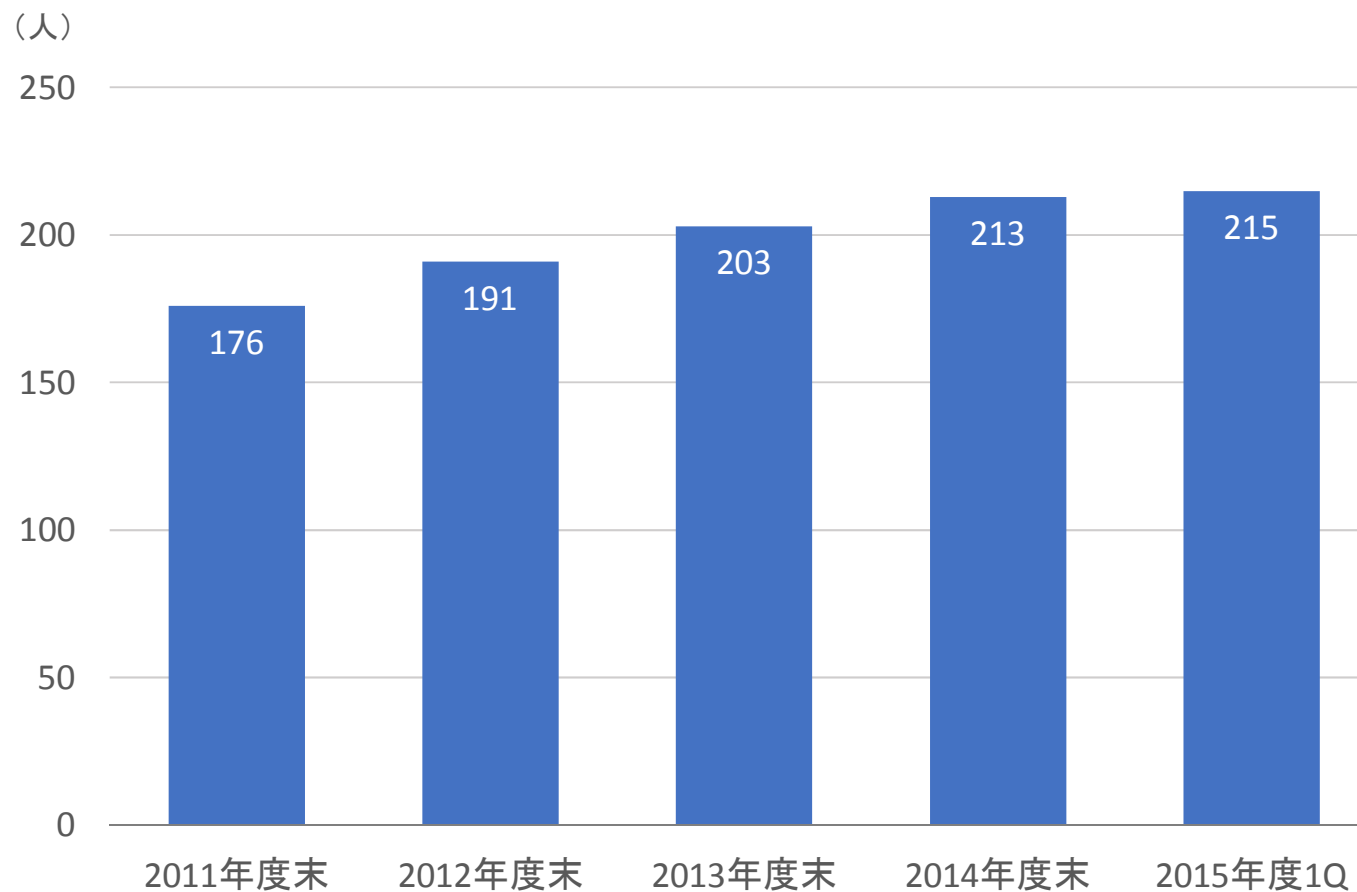
### 3 経常利益の推移

通期経常利益は、6期連続増益を予想しております。



## 4 社員数の推移

2名純増となる215名体制になっております。



(注) 役員および契約社員、派遣社員等を含む



## 5 売上粗利益の定義及び開示に関するポリシー

$$\text{売上粗利益} = \text{売上高} - \text{社内コスト以外の売上原価 (工事費等)}$$

当社の売上高は、フィーのみで構成されるピュアCM方式と、フィー+調達原価で構成されるアットリスクCM方式など、その金額が大きく異なります。

そのため、社内では売上粗利益（売上高から社内コスト以外の売上原価を控除した金額）にて収益の伸びを管理しております。

お客様との守秘義務契約を考慮し、今後もこれまで同様、売上粗利益の開示は控えさせていただきます。

# 2015年度 第1四半期 各セグメント状況



# 1 オフィス事業

- 日本国内における事業再編の動きの継続により、事業所移転などの需要が継続

## － 案件 －

-大企業におけるグループ企業の統廃合

-地方拠点の集約化

-大規模な新築ビルの竣工時同時入居プロジェクト

## 2 CM事業

- 地方公共団体から問合せが増加し、公共機関から幅広く受注
- 民間企業からは、プロジェクト立上げ段階からの新規案件が増加

### － 案件 －

-大阪府立大学学舎整備事業 6年連続受注

-横浜市立市民病院再整備事業CM業務 5月受託

-福島県電源地域振興財団のJヴィレッジ復興・再整備CM業務 6月契約締結

### 3 CREM事業

- 顧客ニーズに合わせて事業性を高めることのできる当社の専門性およびマネジメント能力を評価いただき、受注は堅調に推移

#### － 案件 －

- 大企業向けを中心に、同時進行中の多拠点における中小規模工事の進捗管理システム化や、保有資産の最適化をサポート
- 複数の商業施設、オフィスビル等を保有する大企業
- 首都圏、近畿圏の金融機関から継続して受注



# Meiho Facility Works Ltd.

Architecture, Interiors, Planning, IT, M&E Engineering, Project Management

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる場合がありますことをご了承ください。